重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育の動向 一 指導内容と実践内容に着目して 一

森山 貴史*, 佐々木 全**, 名古屋 恒彦*** (2020年2月21日受理)

Takashi MORIYAMA, Zen SASAKI, Tsunehiko NAGOYA

Trends in Career Education for Children with Severe and Multiple Disabilities
: Focusing on the Contents and Practice

要旨

近年,特別支援学校におけるキャリア教育が重要視されるが,その課題として,①学校の教育活動全体で行うという意図が十分に理解されず,指導場面が曖昧にされていること,②進路に関連する内容が存在しない小学部では,体系的に行われていないこと,③狭義の意味での「進路指導」と混同されていること,④将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ,「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されている場合があることが指摘されている。これらの課題は,重度・重複障害のある児童生徒ではより顕在化する。現在,特別支援学校では児童生徒の障害の重度・重複化が進んでおり,重度・重複障害のある児童生徒に対するキャリア教育について実践的な展望が求められる。

そこで本稿では、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育はどのように捉えられ、実践されてきたのか、その動向について、指導内容と実践内容から概観し、今後の課題を整理した。

Key Words: 重度・重複障害 キャリア教育

I はじめに

2009年改訂の特別支援学校学習指導要領及びその解説に「キャリア教育の推進」が明示されてから10年が経った。2018年改訂の特別支援学校学習指導要領(小学部・中学部)では、キャリア教育について以下のように述べられており、改めて重要視されていることがうかがえる。

児童又は生徒が、学ぶことと自己の将来と

のつながりを見通しながら、社会的・職業的 自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を 身に付けていくことができるよう、特別活動 を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャ リア教育の充実を図ること。その中で、中学 部においては、生徒が自らの生き方を考え主 体的に進路を選択することができるよう、学 校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的 な進路指導を行うこと。

^{*}青森県総合学校教育センター、**岩手大学大学院教育学研究科、***植草学園大学発達教育学部

本改訂では、要となる特別活動の学級活動の内容に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」を設けており、教育活動の中にキャリア教育をより明確に位置づけ、具体的な取組が推進されることが望まれている。

その背景として、同解説の中では、キャリア教育の課題について主に次の4点を挙げている。

- ①学校の教育活動全体で行うという意図が十分 に理解されず,指導場面が曖昧にされている。
- ②進路に関連する内容が存在しない小学部では、体系的に行われていない。
- ③狭義の意味での「進路指導」と混同されている。
- ④将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されている場合がある。

上記課題は、知的障害が重度であったり、複数の障害を併せ有していたりする場合に、より顕著に生じると考えられる。しかしながら、いわゆる重度・重複障害^{注)}のある児童生徒へのキャリア教育について、同解説では具体的に言及されておらず、それ以外に文部科学省から示されている資料もない状況である。現在、特別支援学校では児童生徒の障害の重度・重複化が進んでおり、今後、上記課題の解決がより難しくなっていくことが推察される。

そこで、本稿では、課題解決の布石として、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育はどのように捉えられ、実践されてきたのか、その動向について、指導内容と実践内容から概観し、今後の課題を整理することを目的とした。

Ⅱ 指導内容

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 (2010) は、2008~2009年度の2年間で、知的障 害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研 究を行い、その成果として「キャリアプランニン グ・マトリックス(試案)」を作成し、全国に広

く情報発信した。「キャリアプランニング・マト リックス (試案)」とは、知的障害のある児童生 徒のキャリア発達の段階に応じて、「育てたい力」 を整理した指導内容表であり、これを表1に示し た。この「キャリアプランニング・マトリックス (試案)」は、知的障害特別支援学校のみならず、 他障害種の特別支援学校におけるキャリア教育の 参考とされ、多くの実践されてきた。その一例と して、石川(2014)は、知的障害特別支援学校に おいて,「キャリアプランニング・マトリックス (試案)」を参考に、小学部、中学部、高等部にお ける「キャリア発達に関する願う姿」(「キャリア プランニング・マトリックス (試案)」の自版と いうべき内容)を作成し、これを授業の目標や評 価に反映する実践を報告している。この実践につ いては、後に坪谷・清水・名古屋他(2018)が各 学部主事へのインタビュー調査を実施し、日々の 授業においてキャリア教育が踏まえられているこ とを明らかにした。さらに、上川・小山・名古屋 他(2019)は、日々の授業における児童生徒の姿 と「キャリア発達に関する願う姿」を対照させ. 日々の授業の中でキャリア教育の内容が取り扱わ れていることを指摘した。このように、「キャリ アプランニング・マトリックス (試案)」は、キャ リア教育の指導内容として普及するとともに実践 の足掛かりとして活用されている。

しかしながら、「キャリアプランニング・マトリックス (試案)」は、あくまでも知的障害のある児童生徒を想定した指導内容表であるため、重度・重複障害のある児童生徒にそのまま適応するのは難しい。

また、名古屋(2013)は、「『キャリアプランニング・マトリックス』が比較的障害の軽いと言われる子どもの活動をイメージさせる表現や内容を多く含んでいること」と述べ、このことが、障害が重いと言われる子どものキャリア教育を困難とする考えの背景になっていると指摘している。

一方で、国立特別支援教育総合研究所(2011)による「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」策定の過程では、個人差に応じた実践研究

(知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段略・内容表 (試案)」 改訂版)						
		小 学 部 (小 学 校)	中 学 部 (中 学 校)	高等部		
キャリア発達の段階		職業及び生活にかかわる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活にかかわる基礎的な能力を主台に、それらを統合して働くことに応用する 能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体 に適用するための能力獲得の時期		
キャリア発達段階の解説と発達課題		来分化であるが、随業及び変態・地域生気に関する基礎的能力の部合と整 飲を育て、後の変数性に必要な抜きする最小部の向いますの参加である。 キャリア発液の現点からは、学校及び生活に関連する諸法制のライベにおい て、遊びから自分の呼吸な活動が、投われる素材が更近なものから地域から る素材へ、援助を受けながらの活動から自主か・自立の活動と分異しなが 今全人効労産をどびる動能であり、後くことに対する夢や脚窓を育て、	小学時間を開み上げてきた基礎的な能力を、顕着(集くこと)や生活の場において、 変化に対象する力として動化できるようにしていく時間である。トッリア発金の指立力を は、職業主活と必要を自己及び物色質が(自らのようである。キッリア発金の指立力を 無本験を追して自らの通性に知った。やりがいや作業他の体格を追して、職業の意義、値 他を知ることを学り、自己の判断による遺跡音がを経済を制度である。	中原制の関係ではってきた底力を出合に、実際に企業等で考えてことを前端 は場所の国際ではってきた底力を開発地間。 片板等を含めるともに、前端設 及び移行機能の時間である。 キャリプ列達の附近からは、自らの急性やゆり いなどに変かり、思想決定、傷くことの対論、片板が開発と必要ながある。 が考立女孩を選切に実め、指示・助志を理解し実行する力、関係生活に必要 寄贈析紙、経済生活と必要な知識と会話の表明を図る時間である。		
	進路)発達にかかわる諸能力	小学部段階において育てたいカ	中学部段階において育てたいカ	高等部段階において育てたいカ		
能	力 領 域	1 3 33 33 33 5 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7		14 5 5 7 7 15 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17		
人間関係	具体的な活動を通して、自分や他者 のよい点を知り、学校教育における諸	人とのかかわり	自己理解・他者理解			
形成能力	活動をより良く展開していくために必 要な人とのかかわりを形成するととも	●自分の良さへの気づき ●友達の良さの気づき	●達成感に基づく肯定的な自己理解、相手の気持ちや考え、立場の理解	■職業との関係における自己理解、他者の考えや個性の尊重		
他者の個性を	に、協力・共同して集団活動における 役割を果たすための能力の育成に関す	集団参加	協力・共同			
算重し、自己の個 生を発揮しなが	る領域である。 また、社会生活を送る上で必要とな	●大人や友達とのやりとりと集団活動への参加 幼	●集団における役割の理解と協力	●集団 (チーム) の一員としての役割遂行		
5様々な人々とコミュニケーシ	る適切な意思表現の力を高め、社会生 活における様々な活動に参加するため	意思表現 児 ●日常生活に必要な意思の表現	●社会生活に必要な意思の表現	●必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力		
ョンを図り、協 b・共同してもの	に、場や状況に応じて適切に行動する ための能力の育成に関する領域であ		場に応じた言動			
ことに取り組む。	ための形刀の再成に関する領域であ る。	▲地域 東岸にか2の平標ル	●状況に応じた言葉遣いや振る舞い	●TPOに応じた言動		
		が様々な情報への関心	情報収集と活用			
青報活用	それぞれの職業が人々の生活にとっ て欠かせないものであることを実際的	●仕事、働く人など身の回りの様々な環境への関心	●進路をはじめ様々な情報の収集と活用	職業生活・社会生活に必要な事柄の情報収集と活用		
能力	な活動を通して理解するとともに、自	の 社会資源の活用とマナー		法や制度の活用		
学ぶこと・働	らにとって興味のある活動や職業等に 関して様々な情報を収集し活用するた	並 ●地域社会資源の活用と粤近なきまり	●社会の仕組み、ルールの理解	◆社会の様々な制度やサービスに関する理解と実際生活での利用		
くことの意義や Q割及びその多	めの能力の育成に関する領域である。 また、労働の対価としての報酬の価	び金銭の扱い	金銭の使い方と管理	消費生活の理解		
様性を理解し、幅 去く情報を活用	値に気づき、社会生活を営む上で必要 なルールの理解とそれに沿って行動す	●体験を通した金銭の大切さの理解	●消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費	労働と報酬の関係の理解と計画的な消費		
して、自己の遊路 や生き方の選択	ることや社会の様々な制度の理解とそ れらを活用するために必要な能力の育	ー けたた ノ トフ ニ パ	役割の理解と働くことの意義			
	成に関する領域である。	中 はたらくようこび ●自分が果たす役割の理解と実行	●様々な職業があることや働くことに関する体験的理解 ●学校生活、家庭生活において自分が果たすべき役割の理解と実行	●職業及び働くことの意義と社会生活において果たすべき役割の 実行		
		習慣形成				
将来設計	職業に対する憧れをもち、様々な活 動において達成感や充実感をもつ経験	●家庭、学校生活に必要な習慣づくり 	●職業生活に必要な習慣形成	●職業生活に必要な習慣形成		
能力	を積み重ねることを通して、新しい生活や働くことに期待をもつ。	夢や希望				
夢や希望を持って将来の生き	また、職業や社会の中で自立した生	●職業的な役割モデルへの関心	●将来の夢や職業への憧れ	●働く生活を中心とした新しい生活への期待		
うや生活を考え、 生会の現実を踏	活を送るための必要な役割遂行の能力、及び職業生活に必要な習慣形成の	発 やりがい	生きがい・やりがい			
まえながら、前向 きに自己の将来	ための能力の育成に関する領域であ る。	達 ●意欲的な活動への取組	●様々な学習活動への自発的な取組	●職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用		
を設計する。		全	進路計画	A ADMINISTRAÇÃO DE LA CAMPANTA DE LA		
		体	●目標を実現するための主体的な進路計画	●将来設計に結びつく進路計画		
	選択肢の意味を理解して選択・決定	の ●目標への意識、意欲	●目標の設定と達成への取組	●将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取締		
意思決定 能力	することとともに、選択に伴って実行 することを通して責任を果たすことの	COM TOPICION AND	自己選択(決定・責任)	●初末設計や延的布量の実現を目指した目標の設定とその解決への収息		
自らの意志と	意味を理解する。 また、課題解決する力を育てるため	促 <u>自己選択</u>	●自己の個性や興味・関小に基づいたよりよい選択	▲ ★ # 12 # 12 # 12 # 12 # 12 # 12 # 12 #		
責任でよりよい 選択、決定を行う	に、自らの判断で目標を決めること、 及び結果に対して自ら評価するための	進 ●遊び、活動の選択	●進路先に関する主体的な選択	●産業現場等における実習などの経験に基づく進路選択		
とともに、その過 全での課題や若	能力や、聴縁場面に対して様々な選択	振り返り	肯定的な自己評価			
様に積極的に取 り組み売服する。	肢があることを理解し、より良い選択 を目指す態度の育成に関する領域であ	●活動の振り返り	●活動場面での振り返りとそれを次に生かそうとする努力	●産業現場等における実習などにおいて行った活動の自己評価		
	రే.		自己調整			
			●課題解決のための選択肢の活用	●課題解決のための選択肢の活用		
知的障害の各教科の段階との関連 「 数師の援助を受けながら体験し、基 主体的に、社会生活につながる 本的な行動を一つ一つ身に付けて 行動を身に付けていく段階		教師の援助を受けながら体験し、基 主体的に、社会生活につながる	生活経験の積み重ねを考慮して、社会生活や将来の職業生活の基礎的内容を学ぶ 段階(中学部1段階)	卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活などを考慮した基礎的内容から発展的内容を学ぶ段階(高等部1・2段階)		

表 1 知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス (試案)」

や障害が重いと言われる子どもにかかわる検討も 行われており、「キャリアプランニング・マトリックス」の表記を障害が重いと言われる子どもなり の視点で解釈していくことで活用していく余地も 残されてはいると考えられる。

そこで、重度・重複障害のある児童生徒のキャリア発達の段階に応じた指導内容表に関する資料を収集するため、インターネットによる調査を行った。

インターネットの検索エンジンは、国内外で広く使用されている「Google」を用いた。検索用語は、「(都道府県名)*特別支援*キャリア教育」(*はスペースを入力)とし、47都道府県について検索した。検索結果は、上位10件を対象とした。また、重度・重複障害のある児童生徒を対象とした資料以外は除外した。児童生徒の障害の状態について記載がない場合、重度・重複障害のある児童生徒の多くが学んでいると考えられる「自立活動

を主とする教育課程」に言及しているものを該当 資料とした。

この結果、該当した資料は2件であった。以下に、その概要を示す。

1. 岡山県特別支援教育キャリア教育の発達段階 表(試案)

「岡山県特別支援教育キャリア教育の発達段階表(試案)」は、岡山県特別支援学校長会が岡山県教育庁特別支援教育課の協力を得て作成し、2013年11月に公表した資料である。この発達段階表は、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(中央教育審議会2011年1月31日答申)で示された、「基礎的・汎用的能力」を踏まえ、「準ずる教育の教育課程(視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱)」、「知的障害教育の教育課程」、「肢体不自由教育の自立活動を主とした教育課程」の3つの教育課程で作成している。この内、「肢体不自由教育の自立活動を主とした

表 2 岡山県特別支援教育キャリア教育の発達段階表(小学部)

				/\ <u>^</u>	学部	
			生活・進路の探索・選択に関わる基盤形成			
				基礎		
	暦年齢による役	割	集団参加の基礎, 活動の開始			
				 学校・家庭生活の中で役割を	 果たす	
		要	素	下学年	上学年	
	多様な他者の考えや立場を理 解し、相手の意見を聞いて自	コミュニケーション	コミュニケーション	教師からの関わりを受け止 める。	教師の関わりに表情や声, 身体の動きで応じる。	
社会形成能力	分の意見を正確に伝えること ができると共に,自分のおかれている状況を受け止め,役	社会性	人間関係の 形成	快・不快を声や表情,身体 の動きで表す。	快・不快を声や表情,身体 の動きで伝える。	
成能力	割を果たしつつ他者と協力・ 共同して社会に参画し今後の		112194	いつも一緒に活動する小集 団での活動を受け止める。	いつも一緒に活動する小集 団の中で,友達を意識する。	
Ţ,	社会を積極的に形成すること ができる力				教師の適切な援助や準備に よって、様々な経験を積む。	
	自分が「できること」「意義 を感じたこと」「したいこと」	自己の役割	健康の保持	おおまかな覚醒のリズムを つくる。	覚醒のリズムが安定する。	
課題	について社会との相互関係を 保ちつつ、今後の自分自身の 可能性を含めた肯定的な理解 に基づき主体的に行動すると 同時に、自らの思考や感情を	主体性 自己の障害 受容	人間関係の形成	痛みや不快を感じる。	痛みや不快の感覚を表現す る。	
課題対応力				教師からの関わりに興味関 心をもつ。	教師の反応に興味関心をも つ。	
	律し、かつ、今後の成長のためにすすんで学ぼうとする力			様々な素材に触れたり、活動を経験したりすることで、興味関心の幅を広げる。	興味関心、振る舞い等が明確になり、本人なりの個性としてそれらを発揮する。	
	仕事をする上での様々な課題 を発見・分析し、適切な計画	情報の収 集・活用	環境の把握	教師の声や顔が分かり, 気 持ちを向ける。	なじみのある人や好きな 人,物が分かる。	
自己管理能力	を立ててその課題を処理し、 解決することができる力	計 画・立 案・実行	心理的安定	すぐ近くの人や物を注視し り, 手を伸ばして触ろうと したりする。	2つの物について違いを感 じ取る。	
能力				ひとつながりの物事の終わ りを感じ取る。	ひとつながりの物事の終わ りを受け入れる。	
					学校生活を楽しみにする。	
	「働くこと」の意義を理解 し、自分が果たすべき様々な	学ぶこと・ 働くことの	環境の把握	いろいろな遊びを体験する。	好きなことを見付ける。	
キャリアプ	立場や役割との関係をふまえて「働くこと」を位置づけし、 多様な生き方に関する様々な 情報を適切に取捨選択・活用 しながら、自ら主体的に判断 してキャリアを形成していく	意義や役割 の理解 将来設計	心理的安定	教師に身体を触れられるこ とを受け止める。	教師からの介助を受け止め,一緒に活動に取り組もうとする。	
17アプランニング				教師と一緒に付近の公園や 施設を利用する。	教師と一緒に電車やバスを 利用する。	
グ	カ			安定した健康状態を, 教師 とともに獲得・確立してい く。	安定した健康状態や学習し た事柄を基盤にして,活動 の幅を広げていく。	

教育課程」に対応した発達段階表として,小学部,中学部・高等部それぞれを対象としたものを表2と表3に示した。表中における「要素」という項目は,基礎的・汎用的能力をさらに具体的な要素に捉え直し,上位項目(表中の左側)は準ずる教育課程のもので,下位項目(表中の右側)

は知的障害のある児童生徒の特性をさらに考慮したものを示している。

2. 福岡県立直方特別支援学校「キャリア教育段階表」

福岡県立直方特別支援学校の「キャリア教育段

表3 岡山県特別支援教育キャリア教育の発達段階表(中学部・高等部)

				中学部	高等部
				 現実的探索と暫定的選択	現実的探索・試行と社会的
				移行準備	
	暦年齢による役	と割	応用	実践	
			活動の拡大・充実	活動の実際化・実践	
			社会の中の役割を知る	役割を選択する	
	基礎的・汎用的能力	要		中学部	高等部
	多様な他者の考えや立場を 理解し、相手の意見を聞い	コミュニ ケーション	コミュニ ケーション	担任以外の関わりを表情や 声、身体の動きで応じる。	なじみのない支援者の関わりでも受け止める。
人間関	て自分の意見を正確に伝えることができると共に,自分のおかれている状況を受	社会性	人間関係の 形成	自分の気持ちを伝えようと する。	自分の気持ちを、相手に自 分なりの方法で伝える。
社会形成能力	けいるがれている状况を受 け止め、役割を果たしつつ 他者と協力・共同して社会		151134	教師と一緒に,新しい集団 での活動を受け入れる。	なじみのない集団の活動に 落ち着いて取り組む。
能力・	に参画し今後の社会を積極 的に形成することができる 力			大人としての扱いを受けながら様々な活動に参加する ことで、周囲の人と年齢に ふさわしいやり取りをする。	多様な人と触れ合う経験を 重ね、自分らしい表現や良 いところ(長所)を知って もらい、やり取りをする。
	自分が「できること」「意 義を感じたこと」「したい こと」について社会との相	自己の役割 主体性	健康の保持人間関係の	生活のリズム (睡眠・食事等) が安定する。	非日常的な出来事(生活時間帯の変化等)があっても 健康状態を保つ。
課題	互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた	自己の障害	形成	痛みや不快の感覚を伝える。	痛みや不快を取り除くこと を要求する。
課題対応力	肯定的な理解に基づき主体 的に行動すると同時に,自 らの思考や感情を律し、か	受容		教師から賞賛されたことが 分かる。	教師の自分への評価に興味 関心をもつ。
	つ、今後の成長のためにす すんで学ぼうとする力			様々な支援機器を使うこと により、生活の質を上げる。	価値ある活動(奉仕,労働等) に、支援を受けて自分なり の参加の仕方をすることで, 価値を共有する。
	仕事をする上での様々な課 題を発見・分析し、適切な	情報の収 集・活用	環境の把握	なじみのある人や物とそう でないものが分かる。	周囲のいろいろな人を声や 姿などで区別する。
自占	計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力	計画・立 案・実行	心理的安定	選択肢の中から自分の好き な物, したいことを選ぶ。	場所や支援者が変わっても, 自分の要求を伝える方法を もつ。
自己管理能力				繰り返される物事について, 「~したら, ~になる」とい う短い見通しをもつ。	日常的に繰り返される物事 について,見通しをもつ。
)J				学習経験を通して,様々なことに慣れ,安定した学習ができる。	健康面も含め、しっかりとした個性を発揮することで、様々な可能性を発見してもらい、多様な進路の可能性を、教師とともに見出す。
丰	「働くこと」の意義を理解 し、自分が果たすべき様々 な立場や役割との関係をふ まえて「働くこと」を位置 づけし、多様な生き方に関	学ぶこと・ 働くことの 意義や役割 の理解	環境の把握心理的安定	好きなことや活動を増やす。	・楽しめること(好きな人 との関わり・活動)を期待 して待つ。 ・自分の楽しめることで余 暇などの時間を過ごす。
ヤリアプ	する様々な情報を適切に取 捨選択・活用しながら,自 ら主体的に判断してキャリ アを形成していく力	将来設計		介助を受けることを受け入れ、一緒に活動に取り組も うとする。	協力的な動作をしようとする。
キャリアプランニング能力) CIDING C CV. \ /J			教師と一緒に安定した気持 ちで1泊程度の宿泊をする。	なじみのない支援者の支援 を受けながら、安定した気 持ちで1、2泊程度の宿泊 をする。
为				大人への移行を意識した学習内容や方法により,活動の新たな意味を見出す。	支援を受けながら、学校や 家庭以外の場で過ごすこと を通して、自分のことを知っ てもらい、支援者や活動の 場を増やす。

表 4 福岡県立直方特別支援学校「キャリア教育段階表」

職業的(進路)発達にかかわる		職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される 具体的な能力・態度				
	基礎的·汎用的能力	小学部	中学部	高等部		
人間関係形成能力・	多様な他者の考えや立場を理解し、 相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、 自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・ 協働して社会に参画し、今後の社会 を積極的に形成することができる力	・身近な人からの働き掛けを受け入れる。(働き掛けの受容) ・身近な人へ快不快や意思を表出する。(意思の表出) ・身近な人に向けて働き掛ける。(他者への働き掛	・周囲の人からの働き掛けを受け入れる。(働き掛けの受容)・周囲の人へ快不快や意思を表出する。(意思の表出)・周囲の人に向けて働き掛ける。(他者への働き掛け)・周囲の人と意思の疎通を図りながら一緒に活動する。(意思の疎通)	・いろいろな人からの働き掛けを受け入れる。(働き掛けの受容) ・いろいろな人へ快不快や意思を表出する。(意思の表出) ・いろいろな人に向けて働き掛ける。(他者への働き掛け) ・いろいろな人と意思の疎通を図りながら一緒に活動する。(意思の疎通)		
	〔具体的な要素〕 他者の個性を理解する力,他者に働きかける力,コミュニケーション・スキル,チームワーク,リーダーシップ等	け) ・身近な人と意思の疎通を 図りながら一緒に活動 する。(意思の疎通)				
自己理解:自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ばうとする力 「具体的な要素」自己のも関係付け、忍耐力、スト	・健康な状態を維持する。 (健康状態) ・覚醒水準を維持する。(覚醒水準) ・生活リズムを整える。(生活リズム) ・身近な人や物が分かる。 (状況の理解) ・身近な人と一緒に活動に取り組む。(忍耐力)	・健康な状態を維持する。 (健康状態) ・覚醒水準を維持する。(覚醒水準) ・生活リズムを整える。(生活リズム) ・周囲の人や物が分かる。 (状況の理解) ・周囲の人と一緒に最後まで活動に取り組む。(忍耐力)	・健康な状態を維持する。 (健康状態) ・覚醒水準を維持する。(覚 醒水準) ・生活リズムを整える。(生 活リズム) ・周囲の状況が分かる。(状 況の理解) ・いろいろな人と一緒に最 後まで粘り強く活動に 取り組む。(忍耐力)		
課題対応能力	レスマネジメント,主体的行動等 仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力 〔具体的な要素〕 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等	・一つの課題に注意を向ける。(課題の理解) ・一つの課題に集中して取り組む。(課題の遂行) ・一つの課題を自分の力で解決する。(課題の解決) ・身近な人と一緒に身体の力を入れたり、技いたりして、姿勢を保持したり、身体を動かしたりする。(姿勢の保持、身体の動き)	・いくつかの課題に注意を向ける。(課題の理解)・いくつかの課題に集中して取り組む。(課題の遂行)・いくつかの課題を自分の力で解決する。(課題の解決)・周囲の人と一緒に身体の力を入れたり、抜いたりして、姿勢を保持したり、身体を動かしたりする。(姿勢の保持、身体の動き)	・いろいろな課題に注意を向ける。(課題の理解) ・いろいろな課題に集中して取り組む。(課題の遂行) ・いろいろな課題を自分の力で解決する。(課題の解決) ・いろいろな人と一緒に身体の力を入れたり、抜いたりして、姿勢を保持したり、身体を動かしたりする。(姿勢の保持、身体の動き)		
キャリアプランニング能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力 〔具体的な要素〕 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等	・好きなことや好きなものがたくさんある。(興味, 関心) ・できることや得意なことがたくさんある。(自信, 意欲) ・やりたいことや活動を選択, 決定)	・好きなことや好きなものに取り組む。(興味,関心)・できることや得意なことに取り組む。(自信,意欲)・やりたいことや活動を選択・決定し、取り組む。(選択,決定)	・好きなことや好きなものに取り組んで理解を深め、興味・関心を高める。 (興味、関心) ・できることや得意なことに取り組んで理解を深め、興味・関心を高める。 (自信、意欲)・やりたいことや活動を選択・決定し、改善を図り(工夫し)ながら取り組む。(選択、決定)		

基礎的・汎用的能力	岡山県特別支援学校長会(2013)	福岡県立直方特別支援学校(2017)
人間関係形成能力・社会形成能力	・コミュニケーション・人間関係の形成	・働き掛けの受容・意思の表出・他者への働き掛け・意思の疎通
自己理解・自己管理能力	・環境の把握 ・心理的安定	・健康状態・覚醒水準・生活リズム・状況の理解・忍耐力
課題対応能力	・健康の保持 ・人間関係の形成	・課題の理解・課題の遂行・課題の解決・姿勢の保持,身体の動き
キャリアプランニング能力	・環境の把握 ・心理的安定	・興味, 関心・自信, 意欲・選択, 決定

表 5 基礎的・汎用的能力に基づくキャリア教育の要素(自立活動を主とする教育課程)

階表」は、「岡山県特別支援教育キャリア教育の 発達段階表(試案)」と同様に、「基礎的・汎用的 能力」を踏まえ、職業的(進路)発達を促すため に育成することが期待される具体的な能力・態度 を整理した資料である。自立活動を主とする教育 課程と推察される類型の部分だけを抽出し、表 4 に示した。

3. 「基礎的・汎用的能力」に基づくキャリア教育の要素

調査結果から、自立活動を主とする教育課程で 学ぶ児童生徒を対象とした、「基礎的・汎用的能力」 に基づくキャリア教育の要素について、表5のよ うに整理された。「基礎的・汎用的能力」を重度・ 重複障害のある児童生徒の実態に合わせて具体化 し、実践を通して指導内容を整理する作業は大き な労力を要すると推察され、これらの先行研究は 大変参考になる。

Ⅲ 実践の動向

次に、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育に関する実践報告を概観する。「基礎的・汎用的能力」の内、「人間関係形成能力・社会形

成能力」に関係する力の育成を目指した実践が複数報告されている。例えば、佐々木 (2014) は、愛知県立名古屋特別支援学校が独自に作成した「キャリア形成のための発達段階別指導内容表」を基に、小学部段階として、人間関係形成能力の基盤となる「かかわる」力の育成に向けた実践を報告した。様々な活動の中に教師や他の児童とかかわる場面を意図的に設定したり、周囲の状況を把握しやすくて活動にも参加しやすい姿勢を工夫したりすることで、対象児童が周囲の様子を意識し、自分から働きかける場面が見られるようになった事例である。

相坂(2016)は、対象生徒の「たくさんの人と一緒に会話をし、かかわりあいながら楽しく過ごしたい」という願いを踏まえ、「『YES / NO』の意思を、舌の動きと発声で伝える」ことを目指した実践を報告した。好きな飲み物と嫌いな飲み物を提示して表出を促すなどスモールステップで丁寧な指導を繰り返したことで、具体物がなくても言葉のみの提示で、4つの中から好きなものを一つ選ぶことができるようになった。さらには、飲み物以外にも、音楽の授業における楽器の選択や休憩時間の遊びの選択など、様々な場面で自分の意思で選択し、相手に明確に伝えることができる

ようになった事例である。

乗金(2016)は、対象生徒の課題を「自分の思いや要求を伝えることに積極的になり、様々な活動に自ら取り組もうとすることができる」ことと捉え、「タブレットPCのVOCAアプリ『ドロップトーク』を活用して、自分の気持ちや要求を伝える」こと等を目標とした実践を報告した。その成果として、帰りの会でVOCAアプリを活用した発表を頑張る姿が見られるようになり、その意欲が他の学習場面でも、積極的に周りの人に自分の気持ちや要求を伝えようとする姿につながったことを挙げている。なお、本実践では、前述の岡山県特別支援学校長会(2013)による「岡山県特別支援教育キャリア教育の発達段階表(試案)」を活用して、対象生徒の課題を整理している。

また、「人間関係形成能力・社会形成能力」以外の力に着目した実践も報告されている。例えば、米田(2016)は、「朝の会」において、児童が活動内容を理解しやすいように補助具を工夫したり、自分や友達の役割に気付けるように係活動を設定したりするなど授業改善を行うことで、どの児童も自分なりに係の仕事が分かり、自信をもって活動する様子が見られるようになったことを報告している。これは、岡山県特別支援学校長会(2013)や福岡県立直方特別支援学校(2017)によるキャリア教育の発達段階別指導内容表を参照すると、「キャリアプランニング能力」に関係する力の育成を目指した実践であると言える。

これらの実践研究の共通点として、いずれも肢体不自由特別支援学校による報告であることや、各校が「基礎的・汎用的能力」に基づくキャリア教育の要素や指導内容を独自に整理し、発達段階に応じて育てたい力を明確にしていることが挙げられる。このようなキャリア教育の指標に成り得る発達段階別の指導内容について、全国の特別支援学校で情報交換して、より精度の高いものに発展させていくことが期待されるが、現状では一部の肢体不自由特別支援学校間での情報共有に留まっている可能性がある。

Ⅳ 考察

本稿で試みたインターネットによる調査では、 重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育 に関する資料が二つしか得られなかった。その要 因の一つとして、全国の教育委員会(教育センター 含む)において特別支援学校でのキャリア教育に 関する情報発信が積極的に行われていない可能性 が指摘できる。小学校や中学校、高等学校におけ るキャリア教育については、実践研究の成果物や 理解啓発のパンフレット等が作成され、教育委員 会(教育センター含む)のホームページに掲載さ れている地域が多かったが、特別支援学校につい ては顕著に少なかった。

もう一つの要因として、各特別支援学校のホームページで実践研究に関する情報発信が十分に行われていない可能性が指摘できる。前述の通り、全国の肢体不自由特別支援学校で、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育の実践研究は行われているため、今後、各校がホームページ等を有効活用して積極的に情報発信することが期待される。加えて、重度・重複障害のある児童生徒は、肢体不自由特別支援学校以外の特別支援学校にも在籍しているため、障害種を越えてキャリア教育の在り方を議論していくことも必要であろう。

このように、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育に関する実践研究は、報告数が少ないだけでなく、児童生徒の実態が多様であるが故に指導のアプローチも三者三様であり、指導のポイントとして共通事項を見出すことは難しい。越智・越智・樫木他(2018)は、キャリア教育に関する肢体不自由特別支援学校教員の意識調査の結果から、自立活動を主とする教育課程を担当している教員が、重度・重複障害のある児童生徒の「将来につながる授業」のイメージを他の教育課程の担当教員に比してもてていないことから、「キャリア形成に向けた指標」の必要性を指摘している。この指標に当たる資料については、吉田・矢下・菅野(2013)が、東京都立北特別支援学校が独自に作成した「キャリア教育の流れ表」とし

て公表している。これを表6に示した。同校では、この表に示されている11項目の「つけたい力」(①主体的に関わる、②伝える、③関わりを広げる、④支援を受ける、⑤憧れる、⑥周りを楽にする、⑦期待する、⑧自分でやる、⑨楽しむ、⑩選ぶ、⑪解決する)を、実際の授業の中でどのようにして児童生徒に指導していくのかということをまとめたキャリア教育の「指導内容表」を作成し、ファイルサーバーを使って各自のパソコンから自由に指導案を閲覧できるようなシステムを構築している。また、この表の特徴は、「就学前→学校」、「小学部低学年→小学部高学年」、「小学部→中学部」、「中学部→高等部」、「学校→社会」という各段階での移行支援が重視されている点である。

下山(2013)は、重度・重複障害のある児童 生徒は自ら必要とする支援を伝えることが難し く、支援の仕方にも配慮すべき点が多いことから、 キャリア教育における移行支援の重要性を指摘し ている。移行支援は、特別支援学校卒業時のこと だけでなく、発達段階に応じて「獲得した力を、 いろいろな人、いろいろな集団、いろいろな場で 発揮できるように指導することが大切」であると されている。移行支援に焦点化した実践研究は、 本稿で参照した文献の範囲では見られなかった。 今後、重度・重複障害のある児童生徒のライフス テージに応じた移行支援の充実を志向したキャリ ア教育の実践研究を蓄積していくことが重要な課 題の一つであると考える。

また、菊地(2016)は、重度・重複障害のある 児童生徒へのキャリア教育においては、本人の「思い」や「願い」を大切にすることの重要性を指摘 している渡部(2012)は、重度・重複障害のある 児童生徒を対象とした「本人の願いや夢や希望を とり入れた実践モデル(案)」を6つ提案しており、 その概要を表7に示した。個別の教育支援計画に は、児童生徒本人から聞き取ることが難しいとし ても、保護者や教員が関わる中で感じ取っている 「本人の願い」を記載していることが多いと思わ れるが、それをどのように実践に反映させるかは 担当教員に任されているため、その実態は明らか にされていない。渡部 (2012) による実践モデルは、試行的な取組ではあるものの、キャリア教育の視点と本人の願い、指導のねらい、指導内容のつながりを把握でき、かつ実際の授業がイメージしやすいため、多くの学校で参考になる。

名古屋(2013)は、本来、学習指導要領に基づく教育内容群から構成される教育課程を補完する機能を有する「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」が、知的障害教育の実践の場では、教育課程の中心とされている事態を指摘し、それを「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」への誤解であるとしている。そのような誤解の背景として、「知的障害教育課程自体がそもそも生活の自立をめざした教育内容群で教科等を構成していること」をあげている。本来、生活の自立を重視した知的障害教育課程の伝統の下では、やはり生活に必要な内容で構成される「キャリアプランニング・マトリックス」が、教育課程そのものと互換可能であると見る誤解も生まれやすいと考えられる。

知的障害教育課程は、「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」等のキャリア教育の内容よりも幅広くかつ精錬された内容を有している。そうであれば、知的障害教育においては、「キャリアプランニング・マトリックス」やそれに基づく内容表に重点を置くよりも、学習指導要領に基づく本来の教育内容を適確に把握し教育課程を編成した上で、それらを子どもにどのように指導していくかという方法上の課題も重要であり、その方面での実践研究も展開されている。この一例として、岩手大学教育学部附属特別支援学校(2013)による報告がある。

また、重度・重複障害のある児童生徒への教育においても、そのような方法論の質的検討を行うことまでをキャリア教育とすれば、実践の実績範囲は広がるとも考えられる。また、名古屋(2013)は、障害が重いと言われる子どもに対しては、キャリア教育の本質である、子どもの主体的な生活のありようを、その子なりの主体性を明らかにして検討する必要性を指摘しており、このような視点

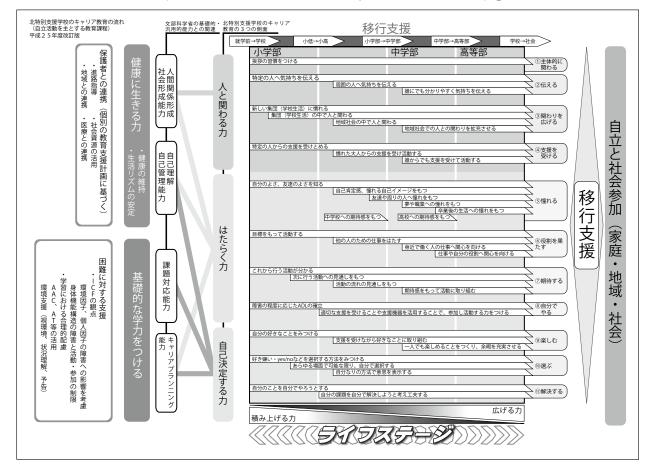


表 6 東京都立北特別支援学校「キャリア教育の流れ表」

での実践動向の検討も今後は求められよう。

注)「重度・重複障害」とは、1975年3月に出された「重度・重複障害児に対する学校教育の在り方ついて(報告)」(特殊教育の改善に関する調査研究会会長辻村泰男)を踏まえると、学校教育法施行令第22条の3に規定する障害を2つ以上併せ有し、発達的側面及び行動的側面における困難が大きく、日常生活において常時介護を必要とする程度の者であると捉えることができる。なお、ここでいう「重度」という概念は医学的に定義されたものではなく、教育的支援上の困難さを表している。

文献

- 相坂潤 (2016) 児童生徒のキャリア発達を支援するための授業づくり~人とかかわるための力の向上を目指して~. キャリア発達支援研究,3,80-86.
- 岩手大学教育学部附属特別支援学校(2013): 児童生徒のキャリア発達を支える授業―目標設定と自己評価の取り組み―. 研究紀要No.22, 105-109.
- 石川則子(2014) 附属特別支援学校におけるキャリア教育の実践研究の取組.岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集.1,17-21.
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2010) 専門研究B「知的障害教育におけるキャリア 教育の在り方に関する研究-『キャリア発達 段階・内容表(試案)』に基づく実践モデル

表 7	木人の願い	や萬や柔望を	とりるも	れた実践モデル	(室)	()连部	2012)
4X I	イナノくマノが只々	(多)(和主)	こっハイ		(*	(<i>//</i> マロル.	2012)

	ねらい	実践例	キャリア教育との関連
タイプA 【本人の願い(好き なこと)そのものを する】	好きなことに取り組むことで、健康状態の保持増進や情緒を安定させ、自己肯定感の向上を図る。	・好きな音楽をスイッチの工夫をし、自分で操作しながら聴く。・好きな絵本を読んでもらう。・水遊びをする。・トランポリンをする。	児童生徒との信頼関係づくりや情緒の安定を図り、自己理解・他者理解を図ることに効果がある。
タイプB 【本人の願い(好き なこと)を授業展開 の中に加えて、意欲 的に授業に取り組め るようにする】	好きなことで学習目的 の達成や集中力を高め る。	・音楽の好きな生徒に目覚めて 活動できるように注意の向く 音楽を流しながら活動する。	興味があることを学習に活かすことは基本的なことではあるが、テーマ性をもたせることによってより学習意欲が高まっていく。また、余暇の面の充実につながり、生きがいややりがいに発展させることも可能である。
タイプC 【本人の願い (好き なこと)を最後にす ることをめざして, 一定時間活動に取り 組めるようにする】	活動の見通しや自己コントロールの力を付ける。	・朝の会の最後にお楽しみコーナーを設け、覚醒した状態で会に参加できるようにする。 ・課題が終わったら、好きな散歩に出かける。	児童生徒との駆け引きだけに使うのではなく、責任をもって課題に取り組む大切さや、先を見通す力をつけることが、将来設計能力(目標設定)を身につけることにつながる。
タイプD 【本人の願い (好き なこと) をきっかけ にして、活動の広が りをねらう】	好きなことを発達課題 の達成に向けての取組 のきっかけとする。	・トランポリンが好きな児童にもう一回して欲しいと要求が出せるように、途中で揺らすのを止めて、要求が出るのを待つ。	学習目標は他にあるが、本人の興味関心を動機付けに活用する。人の喜ぶことや役に立つ活動を組み合わせることによって、自己肯定感が高まり、人間関係形成能力の意思表現の力や、情報活用能力の「はたらくよろこび」を身につけることが期待できる。
タイプE 【新たな出合いや今 まで経験を整理して、憧れの気持ちを もったり、本人が好 きなこと自覚したり する】	新たな憧れの対象を見つけたり、自分の好きなことを自覚したりする。	・校外学習等で新たな場所で新 しい体験活動を行い、その様 子について観察する。	機会を見つけて信頼できる人と新たな活動を行い、その様子を見ることが新たな 興味を広げるきっかけとなる。はじめからできない、嫌がるかもしれないとみ のことが情報活用能力の様々な情報の関心を育てることになる。また、活動の後は、体験のやりっ放しではなく、振り返りを行うことで、本人がその活動の価値づけができるようにすることを忘れてはいけない。
タイプF 【本人の願い(夢や 希望)の達成のため の活動を行う】	願いの達成のために何 が必要なのか,実体験 や本物に触れるなどし て考えていく。	好きな食べ物を本場の土地に 行って食べる。再びその場所に 行けるように、体調管理や健康 の増進のための学習に取り組む	夢の実現そのものがキャリア教育の求めるものではないが、願いを目標にし、どうすれば達成できるのかを考えることは、将来設計能力(目標設定)や意思決定能力(肯定的な自己評価)につながる。

の構築を目指して-」研究成果報告書.

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2011) 特別支援教育のためのキャリア教育ガイド ブック キャリア教育の視点による教育課程 及び授業の改善, 個別の教育支援計画に基づ く支援の充実のために. ジアース教育新社. 179-190,230-235.

福岡県立直方特別支援学校(2017) キャリア教育段階表. http://nogata-ss.fku.ed.jp/one_html 3/

pub/default.aspx?c_id=88(アクセス日:2019–12-20)

上川達也・小山聖佳・名古屋恒彦・高橋緑・安久 都靖・小山芳克・岩崎正紀・中村くみ子・清 水茂幸・東信之・佐々木全(2019)知的障害 特別支援学校におけるキャリア教育の実際 (2) - 「遊びの指導」「生活単元学習」「作 業学習」の授業実践を通じて-, 岩手大学大 学院教育学研究科研究年報,3,249-258.

- 菊地一文(2016)肢体不自由のある児童生徒のキャリア発達支援-共生社会の形成に向けたキャリア教育推進の意義を踏まえて-. 肢体不自由教育, 225, 4-9.
- 名古屋恒彦(2013) 知的障害教育発, キャリア教育. 東洋館出版社, 30-33,37-43.
- 乗金大輔 (2016) 生活を豊かにするキャリア教育を目指して〜中学部 A さんの取組から〜. 肢体不自由教育実践 授業力向上シリーズ No.4-「アクティブ・ラーニング」の視点を生かした授業づくりを目指して-, ジアース教育新社,96-99.
- 越智文香・越智彩帆・樫木暢子・苅田知則・加藤 公史(2018)キャリア教育に関する肢体不自 由特別支援学校教員の意識調査 – 子どもの 「夢や願い」と授業実践との関連 – . Journal of Inclusive Education 4, 74-86.
- 岡山県特別支援学校長会 (2013): 岡山県特別 支援教育キャリア教育の発達段階表. http:// www.pref.okayama.jp/uploaded/life/358822_ pdf1.pdf (アクセス日: 2019-12-20)
- 佐々木高広(2014)キャリア教育を意識した小学 部段階での取り組みについて-人とかかわる 力を育てる-. 肢体不自由教育実践 授業力 向上シリーズ No.2-解説 目標設定と学習評 価-. ジアース教育新社, 36-40.
- 下山直人 (2013) 肢体不自由教育におけるキャリ ア教育. 飯野順子 編著, 障害の重い子ども の授業づくり Part 5 キャリア発達をうなが す授業づくり. ジアース教育新社. 8-25.
- 坪谷有也・清水茂幸・名古屋恒彦・佐藤信・安久 都靖・小山芳克・岩崎正紀 (2018) 知的障害 特別支援学校におけるキャリア教育の実際 - 附属特別支援学校の学部主事へのインタ ビュー調査を通して-. 岩手大学大学院教育 学研究科研究年報,2,163-169.
- 米田容子(2016)キャリア発達を育む授業づくり. 肢体不自由教育,225,28-33.
- 吉田光伸・矢下将徳・菅野孝幸(2013) 自立と社会参加をめざした授業づくり 新キャリア教

- 育の流れ表を活用して:東京都立北特別支援学校-.飯野順子編著,障害の重い子どもの授業づくり Part 5 キャリア発達をうながす授業づくり,ジアース教育新社,66-78.
- 渡部英治(2012)特別支援学校(肢体不自由)に おけるキャリア教育の在り方に関する研究 – 教育課程の改善と児童生徒の「夢や希望」を 大切にした授業づくり – . 財団法人みずほ教 育福祉財団 特別支援教育研究助成事業 特別 支援教育研究論文.